

高等学校における性教育講演会実施後のアンケート結果と課題
－男女の差に着目して－

岡 和子¹⁾ 秋山由加里¹⁾ 福井正康²⁾ 瀧川幸子³⁾

Survey Results and Issues after Lectures on Sex Education in High
Schools – Focusing on the difference between men and women –

Kazuko Oka* Yukari Akiyama* Masayasu Fukui** Sachiko Takigawa***

要旨

高等学校1年生を対象に性感染症を含む性教育の講演を行い、男女における差異を明らかにし、今後の性教育への示唆を得ることを目的に調査を実施した。講演内容のうち「妊娠の成り立ちと経過」は女性の理解度が高く有意差が見られた。役に立つと感じた記述は男女とも【性感染症の知識】【妊娠の成り立ちと経過】【避妊法とコンドームの信頼性】【男女の相違】【相手を尊重・自分を守る】【知識の必要性】の6カテゴリーが抽出された。【性感染症の知識】は男性の記述が多く有意差が見られた。

【妊娠の成り立ちと経過】は女性の記述が多く有意差が見られた。もっと掘り下げて聞きたい内容は男女とも【性感染症の知識】【妊娠の経過】【避妊法】【男女の相違】【相手を尊重・自分を守る】の5カテゴリーが抽出された。妊娠の経過や避妊、性感染症についての知識を男女の特性をとらえ学習させる必要性が示唆された。

Abstract

A lecture on sex education, including sexually transmitted diseases, was given to first-year high school students, and a survey was conducted to clarify the differences between men and women and to obtain suggestions for future sex education. A significant difference was observed in the understanding of the content of the lecture "The origins and course of pregnancy", with women having a higher level of understanding. The statements that both men and women found useful fell into six categories: "Knowledge of sexually transmitted infectious", "Origin and course of pregnancy", "Contraceptive methods and reliability of condoms", "Causes, symptoms, consultation, treatment, and prevention of sexually transmitted Infections", "Origin and course of pregnancy", "Contraceptive methods and reliability of condoms", "Differences between men and women", "Respecting others and protecting yourself", and "The need for knowledge". A significant difference was observed in the "Knowledge of sexually transmitted infectious" category, which was more frequently mentioned by men. A significant difference was also observed in the "Pregnancy" category, which was more frequently mentioned by women. For both men and women, five categories were identified as topics they wanted to learn more about: "Knowledge of sexually transmitted infectious", "The course of pregnancy", "Contraceptive methods", "Differences between men and women", "Respecting others and protecting yourself". The study suggests that the knowledge about the course of pregnancy, contraception and sexually

1) 福山平成大学看護学部看護学科 2) 福山平成大学経営学部経営学科 〒720-0001 広島福山市御幸町上岩成正戸
117-1 Department of Business Administration Fukuyama Heisei University

3) 広島県立福山北特別支援学校 〒720-2412 広島県福山市加茂町下加茂 7006 Hiroshima Prefectural Fukuyama Kita Special
Needs School

transmitted diseases should be taught in a way that considers the characteristics of both sexes.

キーワード: 高校生, 性教育講演会, 男女の差

Key Words : high school students, sex education lectures, Gender Differences

Ⅰ. 緒言

2017 年に日本性教育協会が実施した第 8 回「青少年の性行動全国調査」¹⁾によると若者の性交経験は第 6 回, 7 回調査と比較すると減少傾向にあり, 性行動が活発な若者と希薄な若者の二極化が見られるとしている。

性教育に関する世界的動向として, 1994 年にカイロで開催された国際人口開発会議において「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」という概念が提唱され, 女性の人権の重要な一つとして認識されるに至っている。

「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」の中心課題には, いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由, 安全で満足のいく性生活, 安全な妊娠・出産, 子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれている²⁾。また, 2018 年にユネスコによる「国際セクシャリティ教育ガイダンス」が発刊され, 包括的性教育が世界標準となっている。2020 年に改訂版の日本語訳が出版され人権を基盤とした教育が望まれている。

日本の学校における性教育は文部科学省の学習指導要領に「性に関する指導」として位置づけられ「児童生徒が性に関して正しく理解し, 適切に行動が取れること」を目的に実施され, 指導に当たっては, 「発達段階を踏まえ, 学校全体で共通理解を図り, 保護者の理解を得るなどに配慮するとともに, 事前に指導内容について計画性をもって実施することが大切である」³⁾とされている。岡ら⁴⁾の調査によると, 性に関する知識を得たのは小学校では「体育の授業」, 「養護教諭」, 「外部講師」で中学, 高等学校では, 「保健

体育の授業」, 「外部講師」, 「養護教諭」, 「家庭科の授業」の順である。高等学校は中学校と同様に「保健体育」を中心に教科担任が指導を行っているが, 特別活動としてロングホームルーム (以下 LHR) の時間に外部講師が講演を行っているケースが多い。産婦人科医, 助産師などの外部講師の活用については令和 4 年に初等中等教育局健康教育・食育課により「学校における性に関する指導及び関連する取り組みの状況について」⁵⁾の中に示されている。黒澤⁶⁾は, 助産師による外部講師として高校 2 年生の性教育講演会実施後の評価と課題として, ニーズに合った情報提供と性的健康をコントロールできるスキルの開発の必要性を報告している。高等学校に勤務する養護教諭が実施した性に関する個別指導は「月経に関すること」「妊娠・出産」「性被害」「性別違和」「男子生徒の性に関する相談」⁷⁾が挙げられている。また, 光武ら⁸⁾による性に関する指導の課題として, 「異性との接触」「性に関する悩み」「妊娠後の対応」「性教育」「助産師との連携」が挙げられ, これらについて教育が必要とされる。一方, 性感染症についての動向は, 感染症法 5 類 5 疾患のうち, 梅毒の全数は他の疾患に比べて少ないものの 2012 年までの 7 年間で 8 倍に増加し, 特に 20 代前半の女性に多いという現状である⁹⁾。性感染症の予防行動について若林ら¹⁰⁾は大学生の調査で性感染症の知識が少なく予防行動ができていないことを明らかにしている。そのため, 性感染症について学校での予防教育が必要とされる。また, 性教育の授業等において上野ら¹¹⁾は男女の

受け取り方に差があることを明らかにしている。前述の性に関する個別指導や性感染症の動向について課題が示される中、筆者は2019年から高等学校の生徒に性に関する出張講義を実施している。2023年度もA県内の高等学校から依頼を受け実施した。研究目的は、性教育の講演後に調査を行い、講演の効果や課題について、男女による違いを明らかにし、今後の性教育の示唆を得たいと考える。

II. 研究方法

1. 研究方法

1) 期間：2023年5月～10月

2) 対象及び方法

A県内のB高等学校とC高等学校の1年生534人。どちらの高等学校も公立で、B、C校共4年制大学進学率は8割を越えている。B校は高レベル、C校は中程度レベルである。

3) 事前打ち合わせ

各校の養護教諭と実施1か月前に講演内容を知らせ、生徒の実態や講演時に気を付ける点について連携した。

4) 講演内容

各高等学校の1年生のLHR(50分)に「性教育は生教育」の講演を実施。

(1)生物学的な男女の違い

- ・男女の骨盤の違い、性器の位置と構造

(2)妊娠の経過

- ・基礎体温、ホルモンの変動、排卵の図

- ・卵子と精子の受精・着床

- ・前期、中期、後期の胎児の大きさの特徴

(3)性感染症について、

- ・性感染症の動向

- ・エイズ、性器ヘルペス、性器クラミジア、淋菌感染症、梅毒について病原体と症状・性感染症の予防と感染した場合の対応法。

(4)自分の生き方について考えるの内容で講演を行った。

5) 調査内容

実施後の調査は講演内容の定着度を知るため1か月以上経過後実施した。調査内容は、種本ら¹²⁾が実施した内容に追加した。項目は、以下のとおりである。

(1) 基本的事項：性別、年齢

(2) 講演内容の理解度

①男女の違い ②妊娠の成り立ちと経過

③性感染症(1:ほとんど理解できない, 2:あまり理解できない, 3:やや理解できた, 4:理解できた)の4件法

(3) 講演内容は役に立つかどうか

①男女の違い ②妊娠の成り立ちと経過

③性感染症(1:全く役に立たない, 2:あまり役に立たない, 3:やや役にたつ 4:非常に役に立つ)の4件法

(4) 役に立つと感じた内容(自由記述)

(5) もっと掘り下げて聞きたい内容(自由記述)

6) 分析方法

(1) 対象者の属性

Excel ver.23を用いて単純集計し、基本統計量を算出した。

(2) 各項目の分析

4件法によるアンケート結果について、それぞれ点数とみなしSPSS ver.27を用い、男女の比較をMann-Whitney検定で行った。自由記述は記入内容の類似する事項を抽出し項目ごとにサブカテゴリー、カテゴリーに整理した。分析は研究者間で検討し、質的分析に造詣が深い研究者にスーパービジョンを求め信頼性の確保に努めた。男女の比較は、項目の頻出数を人数とみなし χ^2 二乗検定を行った。いずれも有意水準は5%とした。

2. 倫理的配慮

本調査の趣旨を各学校の校長に説明し、実施後にアンケート調査を実施することの同意を得た後に実施した。生徒に対しては、調

査の目的、記入したデータは、統計的に処理され個人が特定されない、研究目的以外には使用しない、成績には影響しない、本研究に協力しないことによる不利益はないこと、調査票は5年経過後に研究者がシュレッターで破棄することを研究対象の生徒のクラス担任からと文書で説明し協力を得た。実施は、当該校の担任が生徒に調査票を配布し、同意の有無を記入し、回答は全員が調査票を封筒に入れ回収ボックスに投函してもらった。本研究は福山平成大学倫理委員会の承認を受けた。（承認番号5-2号）

Ⅲ. 結果

1. 基本的事項

回収数 447 人（回収率 83.7%）有効回答数 440 人（有効回答率 98.4%），性別：男性 218 人（49.5%），女性 222 人（50.5%），年齢 15.4 歳（SD±0.96）

2. 講演内容の理解度（表 1）

表1 講演内容の理解度			
	男女の違い	妊娠の成り立ちと経過	性感染症
男（n=218）	3.57	3.41	3.38
女（n=222）	3.69	3.65	3.45
P 値：Mann-Whitney 検定 **P<0.01			

講演内容の理解度のうち、「男女の違い」は平均値が男性 3.57，女性 3.69 で女性が少し高かった。「妊娠の成り立ちと経過」は男性 3.41，女性 3.65 で女性が高く有意差が見られた。「性感染症」は男性 3.38，女性 3.45 で女性が少し高かった。

3. 講演内容が役に立ったか（表 2）

講演内容が役に立ったかについて、「男女の違い」は平均値，男性 3.45，女性 3.53 で女性が少し高かった。「妊娠の成り立ちと経過」は男性 3.49，女性 3.62 で女性が少し高かった。「性感染症」は男性 3.55，女性 3.59 で女性が少し高かった。どの項目も有意差は見られなかった。

4. 役に立つと感じた内容について（表 3）

カテゴリーは【 】，サブカテゴリーは＜ ＞で示す。

表2 講演内容が役に立ったか			
	男女の違い	妊娠の成り立ちと経過	性感染症
男（n=218）	3.45	3.49	3.55
女（n=222）	3.53	3.62	3.59
P 値：Mann-Whitney検定			

役に立つと感じた内容について男女とも【性感染症の知識】【妊娠の成り立ちと経過】【避妊法とコンドームの信頼性】【男女の相違】【相手を尊重・自分を守る】【知識の必要性】の6カテゴリーが抽出された。

【性感染症の知識】は、＜原因・感染経路・危険性の理解＞＜感染時の症状＞＜治療や受診に役立つ＞＜予防に役立つ＞の4サブカテゴリーが抽出された。また、男性93人（42.7%），女性71人（32.0%）で男性の割合が高く、有意差が見られた。

サブカテゴリーの＜原因・感染経路・危険性の理解＞は、男性42人（19.3%），女性29人（13.1%）で女性の割合が高かった。男性は「性感染症の恐ろしさについて知り、役立った」11人、「身近にある性感染症について知ることができた」12人、女性は「性感染症にはいろいろな種類がある」11人、「性感染症について理解することができた」9人という回答が見られた。＜感染時の症状＞は、男性15人（6.4%），女性8人（3.6%）で男性の割合が高かった。＜治療や受診に役立つ＞は男性11人（5.0%），女性13人（5.9%）で差はなかった。男性は「もし自分が性感染症になった時に役に立つ」5人、女性は「自分が感染症になった時どうすればよいか知ることができた」7人が見られた。＜予防に役立つ＞は男性25人（11.5%），女性21人（9.5%）で男性の割合が高かった。男性は「自分が性感染症にならないためにどんなことに気を付ければよいか分かった」6人、

表3-2 役に立つと感じた内容

カテゴリー	男子 n=218			女子 n=222				
	項目	人数	%	項目	人数	%	P値	
妊娠の成り立ちと経過	妊娠の成り立ちと経過（11）	16	7.3	妊娠の成り立ちや経過（29）	48	21.6	**	
	子どもの生まれる仕組みが分かった（2）			望まない妊娠をしてしまった場合の対処についての知識についてあまり知らなかったので知れてよかった（7）				
	妊娠やつわりについてやその時の症状			自分は妊娠する可能性があるのだからそれについて知れてよかった（8）				
	妊娠にはわかるまで数日かかることが分かった			妊娠した時の中絶の危険性や対策を行ったうえでの妊娠や性病の感染リスクについて知れた（2）				
	生まれることの幸せさ			妊娠した時に相談相手が必要だということ				
				妊娠ですごいと思った				
避妊方法とのコ	避妊の仕方（10）	14	6.4	避妊の方法などについて知れた（6）	8	3.6		
	コンドームの重要さ			避妊具は絶対でないと初めて知りました（2）				
	コンドームは100%避妊できるものではない（3）			妊娠を防ぐためにつけるものを聞いたので役に立つと思いました。				
男女の相違	男女の体の相違について（17）	28	12.8	男女の違いについて、前よりもっと詳しく知れた（14）	22	9.9		
	男女差別などニュースで取り上げられているが、まずは男女のことについてよく知ることが大切だと感じていたから（4）			男女の骨盤の形など、男女の違いが出ること（4）				
	骨盤の特徴			男女の違いはこれからの人生で大切なことになってくると思うから（2）				
	男には男の、女には女の身体づくりがあるので。おなじだと言ってしまうのをさけたい(3)			男女の体内の作りは全然違うこと妊娠してしまう違いが分かった				
	男女の違いを理解することによって、何が違うのか、どうやって接すればいいか分かった			妊娠の成り立ちについては男性を学ぶ機会がなかったので役立った				
	男女だと体が違うだけでなく心も違うと思う							
	男女での接し方や性のことについてしっかり考えることが大切							
相手を尊重・自分を守る	男女の違いを知ることで、これからの接し方を考えることができるようになった（2）	5	2.3	不幸を呼ばないために重要	7	3.2		
	妊娠の責任感			相手だけでなく、自分も気を付けていないといけないことがよく分かった				
	性についてちゃんと知識や情報を理解しておくで将来相手を傷つけたたり、誤った行動をとらないですむと思った			命の大切さを理解した				
	性感染症でなくなっている人もいるから、相手や自分を守るために役立つ			自分がその立場になった時どのような対応をすればよいか分かった				
				これからの自分たちを守るために今回聞いておけてよかった				
知識の必要性				男女では体や心も違いや差があるので、それを踏まえて人に接したいと思った				
				お互いの気持ちを尊重することが大切だと分かった				
	これから大人になっていくうえで必要な知識や男女での性的接触について深く知れてよかった（26）	32	14.7	大人になっていくにつれて大切なことが理解できた（10）	19	8.6		
	講演を行うことで知識にもなるし、改めて理解することができる			これから気を付けていきたい（4）				
	子どもをつくるうえで大切に命を守るために必要			わかりやすく説明されたので中学よりも理解できた（2）				
	中学生と違って奥深くまで学ばせてもらえることができた			保健の授業だけでは習いきれない部分もあり、深掘せず、このまま知らずに生きていくかもしれないと思った				
詳しい説明をしてくださったから	SDGSなどでいろいろな考えが出されている。今の時代どれも大切だと思う							
			ジェンダーレスについての内容が役に立つ					
	男子にはわからないことが聴けた							

χ^2 検定 * P値≦0.05 ** P値≦0.01

女性は「性感染症は正しい予防をすることで防ぐことができる」13人と多く見られた。

【妊娠の成り立ちと経過】は、男性 16 人 (7.3%)，女性 48 人 (21.6%) で女性が高く、有意差が見られた。「妊娠の成り立ちと経過」は男性 11 人、女性は 29 人と多く、女性は「望まない妊娠をしてしまった場合の対処についてあまり知らなかったので知れてよかった」7人という記述が見られた。

【避妊法とコンドームの信頼性】は、男性 14 人 (6.4%)，女性 8 人 (3.6%) で男性の割合が高かった。「避妊の仕方」は男性 10 人、女性 6 人と多く、女性は「避妊具は絶対に初めて知りました」2人という記述が見られた。

【男女の相違】は、男性 28 人 (12.8%)，女性 22 人 (9.9%) で女性の割合が高かった。「男女の体の相違」男性 17 人、女性 14 人と多く、男性は「男女差別などニュースで取り上げられているが、まずは男女のことについてよく知ることが大切だと感じた」4人、「男女の違いを理解することによって、何が違うのか、どうやって接すればいいかわかった」の記述があり、女性は「妊娠の成り立ちについては男性を学ぶ機会がなかったので役立った」があった。

【相手を尊重・自分を守る】は、男性 5 人 (2.3%)，女性 7 人 (3.2%) であった。男性は「男女の違いを知ること、これからの接し方を考えることができたようになった」2人、女性は「男女では体や心も違いや差があるので、それを踏まえて人に接したいと思った」「お互いの気持ちを尊重することが大切だと分かった」などが見られた。

【知識の必要性】は、男性 32 人 (14.7%)，女性 19 人 (8.6%) で男性の割合が高かった。「これから大人になっていくうえで必要な知識や男女での性的接触について深く知れてよかった」男性 26 人、女性 10 人と多く見

られた。男性は「子どもをつくるうえで大切に命を守るために必要」「中学生と違って奥深くまで学ばせてもらえることができた」女性は「保健の授業だけでは習いきれない部分もあり、深掘せず、このまま知らずに生きていくかもしれないと思った」が見られた。

5. もっと掘り下げて聞きたい内容 (表 4)

カテゴリーは【 】, サブカテゴリーは<>で示す。

もっと掘り下げて聞きたい内容は、男女とも【性感染症の知識】【妊娠の経過】【避妊法】【男女の相違】【相手を尊重・自分を守る】の 5 カテゴリーが抽出された。

【性感染症に知識】は、<原因・種類><症状><対処・相談><予防>の 4 サブカテゴリーが抽出された。

全体では、男性 33 人 (15.1%)，女性 34 人 (15.3%) であった。

<原因・種類>は、男性 20 人 (9.2%)，女性 18 人 (8.1%) で「性感染症について詳しく聞きたい」が男女とも多くを占めていた。<症状>は、男性 4 人 (1.8%)，女性 6 人 (2.7%) であった。<対処・相談>は、男性 3 人 (1.4%)，女性 6 人 (2.7%) で「性感染症になった場合の対処法」が女性に多く見られた。<予防>は男性 6 人 (2.8%)，女性 4 人 (1.8%) であった。

【妊娠の経過】は、男性 6 人 (2.8%)，女性 18 人 (8.1%) で女性のほうが多く、有意差が見られた。女性がもっと知りたい内容として「妊娠の経過」「出産について」が多く見られた。【避妊法】は、男性 7 人 (3.2%)，女性 3 人 (1.4%) であり、男性は「避妊の仕方」「コンドームのつけ方」女性は「ピルの服用と種類について知りたい」があった。

【男女の相違】は、男性 7 人 (3.2%)、女性 11 人 (5.0%) であった。

【相手を尊重・自分を守る】は、男性 1 人 (0.5%)，女性 1 人 (0.5%) であり、男性

表4 もっと掘り下げて聞きたい内容

		男子 n=218		女子 n=222				
カテゴリー	サブカテゴリー	項目	人数	%	項目	人数	%	P値
性感染症の知識	原因・種類	性感染症について詳しく (15)			性感染症について詳しく (13)			
		性感染症原因 (2)			病原体の種類 (4)	18	8.1	
		感染者数 人口に占める割合 (1)	20	9.2	性感染症の病原体 (1)			
		エイズ(1)						
		性感染症の体験談 (1)						
	症状	性感染症の症状(4)	4	1.8	感染した時の症状 (6)	6	2.7	
		性感染症の対処方法 (1)			性感染症になった場合の対処 (4)			
	対処相談	性病に感染した人があるとすべき行動 (1)	3	1.4	性感染症の疑いがあった時、親にどんな風に相談したらよいか (1)	6	2.7	
		治療 (1)			治療法 (1)			
	予防	性感染症の予防 (6)	6	2.8	性感染症の予防 (4)	4	1.8	
		性感染症合計	33	15.1		34	15.3	
妊娠の経過		妊娠の成り立ちについて (5)	6	2.8	妊娠の経過 (13)			
		胎児について (1)			出産について (3)			
					妊娠中に避けたほうが良い食べ物 (1)	18	8.1	*
					胎児について (1)			
避妊法		避妊の仕方 (5)			性行為			
		コンドームのつけ方 (1)	7	3.2	日本の性教育はなぜ遅れているのか (1)	3	1.4	
		性行為 (1)			ピルの服用と種類が知りたい (1)			
男女の相違		男女の違い (5)			男女の違い (9)			
		精神的な男女の違いについて (1)	7	3.2	男女の思春期について (1)	11	5.0	
		男子と女子がいる理由 (1)			男女の他の性別について (1)			
相手を尊重 自分を守る		妊娠中の女性のつらさの種類やパートナーや家族がどのようにサポートしたらよいか	1	0.5	加害者・被害者にならないためにはどのようにすればいいか	1	0.5	

χ²検定 * P値≦0.05

は「妊娠中の女性のつらさの種類やパートナーや家族がどのようにサポートしたらよいか」、女性は「加害者・被害者にならないためにはどのようにすればいいか」があった。

IV. 考察

1. 講演内容の理解度について

「男女の違い」、「性感染症」は有意差が見られなかったが、「妊娠の成り立ちと経過」は有意差が見られ、女性の理解度が高かった。学習指導要領¹³⁾によると高等学校「保健」の授業は第1学年と2学年で行うとされ、性感染症、HIV・エイズ、妊娠と出産(1)(2)は2年生で実施されている。そのため、対象の1年生にとって今回の内容は、中学校「保健体育(保健分野)」の「心身の機能の発達と心の健康」で受精・妊娠を取り扱うとし、学習済みであるが、「妊娠の経過は取り扱いのないものとする」とされているため、女性の方が自分のこととして受け止め関心が高く理解度も高まったのではないと思われる。

2. 講演内容が役に立ったか

講演内容が役に立ったかは男性、女性の有意差は見られなかった。

3. 役に立つと感じた内容、もっと掘り下げて聞きたい内容

1)役に立つと感じた内容、もっと掘り下げて聞きたい内容は【性感染症の知識】が最も多く、男性の記述が多くみられ有意差が見られた。男女とも＜性感染症の原因、種類、恐ろしさ＞についての記述が多く見られた。＜治療や受診に役立つ＞は、男女とも「自分が性感染症になった時に役立つ」が多く、「感染した場合どの病院を受診すればよいか」の記述が見られ、受診する病院の知識が得られたことが伺えた。女性は「子どもへの影響」の記述があり、性感染症に罹患することで、不妊の可能性もあることが理解されたものと思われる。＜予防に役立つ＞について、女性は「性感染症は正しい予防をすることで防ぐことができる」、男性は「性感染症はコンドームの使用により防げることができる」の記述があり、郡司¹⁴⁾による調査においても相手を思いやる行動に男性のほうが感染症予防のため「コンドームを使用すること」に有意差の見られたことを明らかにしている。コンドーム使用について相手への思いやり

など感性に訴えることが必要と思われる。

2) 【妊娠の成り立ちと経過】は、女性の記述が多く有意差が見られた。男女とも「妊娠の成り立ちと経過」が多く、これは前述のとおり、中学校までに学習の機会がないためと思われる。女性は「望まない妊娠をした場合の対処についてあまり知らなかったのを知れてよかった」という記述が多く見られた。また、「出産について」もっと知りたいという記述があり、学習指導要領の「はどめ規定」により学習ができていないが、ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」¹⁵⁾では、「妊娠の兆候、胎児の発達と分娩」は中学校までに学習する内容であり日本においても中学校までの学習が望まれる。

3) 【避妊法とコンドームの信頼性】は男女とも「避妊の方法」が多く、女性は「避妊具は絶対でないと初めて知りました」という記述が見られた。

穂迫ら¹⁶⁾による高校生を対象とした調査では、避妊についての関心が男性の方が優位に高いという報告がある。もっと知りたい内容で、男性は「コンドームのつけ方」女性は「ピルの服用と種類」が少数ではあるが見られ、これらについても中学校卒業までに正しい知識の教育が必要である。

4) 【男女の相違】は、男女とも役に立ったという記述が多く、男性は「男女差別などニュースで取り上げられているが、まずは男女のことについてよく知ることが大切」、「男女の違いを理解することによって、何が違うのか、どうやって接すればいいか分かった」の記述が見られ、女性は「男性の身体の構造を学ぶ機会がなかったので役立った」との記述があった。楊ら¹⁷⁾による教育大学生を対象とした小学生から今までの性教育の内容によると、小学生では人間の「身体の仕組み」が最も多く、次いで

「初経」「月経について」で中学校でも「人間の体と発達」が最も多く「精通」「射精」の割合が多くなっているとしている。そのため、男女の身体の構造と機能は小学校、中学校で学習済みと思われるが、改めて、男女の身体的な違いを理解することにより、お互いを理解することや接し方について考える機会となったのではないかと考える。

5) 【相手を尊重・自分を守る】は、男女とも「男女の違いを知る」ことで、これから男性、女性との接し方を考える機会となったことが記述から伺える。

6) 【知識の必要性】は男女とも「これから大人になっていくうえで必要な知識」「子どもをつくるうえで大切に命を守るために必要」「中学生と違って奥深くまで学ばせてもらえた」。女性は「保健の授業だけでは習いきれない部分もあった」などの記述が見られ知識が不足していることを感じていた。

V. 結論

講演内容の「妊娠の成り立ちと経過」は女性の理解度が高く有意差が見られた。

「妊娠の成り立ちと経過」は講演時に男女とも未学習であったが、女性は自分のこととして受け止めたためと思われる。

「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」では「妊娠、胎児の発達と分娩」は中学校までの学習内容となっており日本においても学習が望まれる。

役に立つと感じた記述は男女とも【性感染症の知識】【妊娠の成り立ちと経過】【避妊法とコンドームの信頼性】【男女の相違】【相手を尊重・自分を守る】【知識の必要性】の6カテゴリーが抽出された。【性感染症の知識】は男性の記述が多く有意差が見られた。【妊娠の成り立ちと経過】は女

性の記述が多く有意差が見られた。

もっと掘り下げて聞きたい内容は男女とも【性感染症の知識】【妊娠の経過】【避妊法】【男女の相違】【相手を尊重・自分を守る】の5カテゴリーが抽出された。今後、妊娠の経過や避妊、性感染症について男女の特性をとらえ学習させる必要性が示唆された。

利益相反

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

文献

- 1) 「若者の性白書」第8回青少年の性行動全国調査(2019)、一般社団法人 日本児童教育新興財団内日本性教育協会/編, 小学館。
- 2) 内閣府, 男女共同参画局(2000) 生涯を通じた女性の健康支援,
〈https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/1st/2-8r.html〉(2024.10.3 閲覧)
- 3) 文部科学省(2024) 学校における性に関する指導について～エイズ及び性感染症を中心に～
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001264945.pdf> (2024.10.11 閲覧)
- 4) 岡和子, 秋山由加里, 木宮高代他(2024), 高等学校における性教育講演前後の生徒の性感染症の知識の実態と課題, 福山平成大学看護学部紀要, Vol3, No1, 1-10.
- 5) 文部科学省(2022) 学校における性に関する指導及び関連する取組の状況について,
〈<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000910047.pdf>〉
<https://www.mhlw.go.jp/content/000910047.pdf> (2024.10.11 閲覧)
- 6) 黒澤やよい(2022), 高校2年生への性教育講演会の評価と課題 ～保健体育授業と連携した性教育の試み～, 桐生大学紀要. 第33号, 43-49.
- 7) 秋月百合, 池田かれん, 田崎花成子(2021), 性に関する指導経験と課題および妊孕性教育の可能性: 高校養護教諭へのインタビュー, 熊本大学教育学部紀要, 第70巻, 189-198.
- 8) 光武智美, 岩崎保之(2022), 高等学校の養護教諭における生徒の性に関する課題の把握と解決に向けた取組, 京都女子大学生生活福祉学科紀要, 第17号, 105-112.
- 9) 荒川創一(2021), 性感染症の現状と問題点, 環境感染誌, Vol136, no1, 1-9.
- 10) 若林沙知, 若林伸子(2018), 大学生の性行動の実態と性感染症罹患に対する予防行動との関連について, 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要, Vol. 14, 37-44.
- 11) 上野 陽子, 高瀬 美由紀, 小林 敏生(2019), 教育機関で助産師が行う性教育のあり方 高校生の性教育への「関心」とその関連要因の検討, 母性衛生 59巻2号, 501-510.
- 12) 種本香, 原田小夜, 大籠広恵他(2013), 看護大学生における性感染症の知識と意識の実態, 聖泉看護学研究, Vol.2, 89-96.
- 13) 文部科学省(2018), 新学習指導要領
〈https://www.mest.go.jp/b_menu/shingi/chousa/hisetu/044/shiryo/https://www.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/044/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2018/07/09/1405957_003.pdf〉(2023.9.15 閲覧)
- 14) 郡司菜津美(2016), 高校における性感染症予防授業の性別による受け取り方の差, 思春期学, 34巻1号, 65-176.
- 15) ユネスコ編(2020/2024), 浅井春夫, 艮香織, 福田和子他(翻訳), 改訂版, 国際セクシュアリティ教育ガイダンス, 明石書店.
- 16) 穂迫 享子 但馬 まり子, 宮本 雅子他(2017), 性別にみた高校生の性に関する理解と性教育のあり方の検討, 日本看護学会論文集: ヘルスプロモーション 47号 39-42.
- 17) 楊欣欣(2024), 日本の教育大学学生の性教育経験と意識に関する調査研究ー教員養成段階からの指導力育成を視野に一, 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要巻 9, 175-182,